

発表番号3 富士山国有林におけるニホンジカの新しい捕獲手法
(誘引捕獲：シャープシューティング)の検討

○静岡森林管理署 森林育成係長 漆道 真也
表富士森林事務所 森林官 佐々木 貴博
上井出森林事務所 森林官 神長 宏和
○静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター
上席研究員 大橋 正孝

1 課題を取り上げた背景

富士山麓において、ニホンジカが近年著しく過密化し、当署管内の富士山国有林及び国有林に隣接する森林や牧草地において、食害による甚大な被害が発生しています。

これまで当署では、剥皮防止ネット及び金網柵等の資材による樹木の保護や地元猟友会に依頼して捕獲(巻き狩り)による対策を実施してきましたが、被害は収まらず、むしろ拡大、深刻化が進んでしまいました。

そこで平成23年度より、当署自ら積極的に参加し、また捕獲方法についても新しい捕獲手法として誘引捕獲法を試行的に導入してニホンジカの捕獲に取り組んできました。本発表ではこの取り組みについて紹介します。

2 具体的な取組

当署、富士宮市、静岡県森林・林業研究センター等で構成する「富士宮市鳥獣被害防止対策協議会」により、国有林で初めての取組となる誘引捕獲を昨年1~2月に実施しました。その実施に当たっては、森林管理者としての当署と研究者、捕獲技術者が1つのチームとして、連携・協力体制を構築しながら推進しました。

まず、射手は、高い射撃技術とニホンジカの捕獲経験豊かなNPO法人「若葉」に依頼しました。事前に銃を用いた手法の合法性について管轄行政部署へ確認を行うとともに、安全確保のため関係機関等への周知や注意喚起看板の設置を行いました。

また独立行政法人森林総合研究所から同研究所らが開発中の給餌プロ

グラムの提供、指導を受け、ニホンジカの痕跡が多く射撃に適した地形等から給餌場所を選定し、捕獲開始日の約1ヶ月前から給餌を行いました。捕獲当日は、監視体制、連絡体制を確実に整えたうえで、2つのエリアで2人の射手により車で給餌場間を走行しながら遭遇するニホンジカを狙撃する捕獲を実施しました。

3 取組の結果

早い箇所は3日目で餌付き、捕獲初日までにほぼ全ての給餌箇所での餌付けに成功しました。捕獲は計6日間行い、射撃した群れの内、5割強が群れ全体を捕獲し、計73頭捕獲しました。

4 まとめ

誘引捕獲の実施は、当署、研究者、捕獲技術者等が一体となったチームを形成でき、万全な体制で臨んだことから大きな成果を挙げました。本方法は、①効率的な捕獲が可能、②妊娠期にメスジカを狙い撃ち可能、③高い安全性、④群れごと捕獲することで警戒心の強いニホンジカをつくらず、継続的に実施可能等の利点を有し、個体数管理で有効な方法である事が検証できました。

一方で下層植生が多く、餌が豊富な射撃の不適地では、十分な効果を発揮できなかったため、平成24年度には、このようなエリアで忍び猟やくくりわな(猟友会によるわなチームも参加)により捕獲を行うことで約3ヶ月間で355頭捕獲するとともに、誘引捕獲に適したエリアでは、拡充して実施しています。誘引捕獲により構築したチーム力、技術がより組織的、戦略的な捕獲に繋がったと評価できます。

今後、誘引捕獲については、ニホンジカの頭数調整の1つの効果的手法としてマニュアルを作成する予定であり、これを広く情報提供し、ニホンジカ対策の推進に活かしていくこととしています。

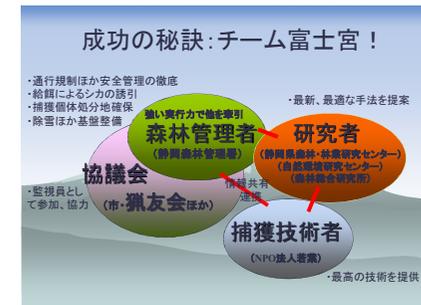


図1 連携体制図